

## 立山&奥大日岳山行報告

【山行日】2020年 10月 3(土)~4(日)

【集 合】岩舟町役場P AM 2:00

【費 用】マイカー1台 : 20,000円

【メンバー】CL:鈴木、 SL大西、 安西、石澤、関、鶴見、福島、藤原、吉田、渡辺

【コースタイム】3日: 岩舟町役場 P2:00=

立山駅 P5:50/7:50+++室堂 8:50/9:05~一ノ越

10:00/10:10 ~ 雄山 11:10/11:30 ~ 大汝山

12:00/12:30~大走り分岐 13:00~雷鳥沢 14:40

~雷鳥荘 15:10



**3日 曇り時々晴れ 室堂から一ノ越経由で雄山&大汝山を登り、大走りコースを下山し雷鳥荘へ**

3年前の夏に雪で登れなかった奥大日岳をリベンジしたいというリクエストがあり、今回の山行を計画した。立山には何回も登っているが、秋の紅葉時季には登ってないので10月に計画した。



今年はコロナの影響で立山黒部アルペンルート<sup>1</sup>の始発が7:40となっていたが、10月から1時間早くなり6:40分始発となり安心した。

ところが、立山駅に着くとチケットを求める長蛇の列が出来ている。Y田さんを駅前で降ろし長蛇の列に並んでもらい、我々は車を河川沿いの駐車場に止め支度する。10分ほど歩いて駅に着くと列はさらに伸びていて、トイレを済ませたらY田さんと交代し我輩が列に並ぶ。

チケットを買えたのが7時を過ぎていて、7:5

0分発のケーブルカーにようやく乗れた。美女平でバスに乗り換え、明日登る奥大日岳や剣岳、立山の景色を眺めながらアルペンルート<sup>1</sup>を走り、室堂のターミナルに着く。ターミナルでトイレを済ませてから外に出て、玉殿の湧水前でストレッチを済ませ出発する。スタートが遅れているので、玉殿の湧水を味わう余裕が無くスタートする。

一ノ越に向かって石畳の道を進み、雄山や大汝山、別山等を眺めながらゆっくり登って行く。山肌がえんじ色に染まる独特の紅葉で彩られ、雄山がさらに重厚さを増し迫ってくる。皆さんから「ウワ~~綺麗!!素晴らしい景色だね」と感嘆の声が聞こえてくる。近づいてみるとチングルマの葉やタデの葉が紅葉し山肌を染めていた。景色を楽しみながら登り、一ノ越山荘で休憩する。果物や水を補給し、これからの急登に備えて衣服調整をする。



ここからは登山道も狭く急な岩場の登りで、登山者の列に付いて登るしか出来ない。ゆっくりしたペースで我々のパーティには良かったが、後ろから登ってくる人たちは不満そうだった。



三ノ越の安全地帯で小休止し、登山者の列に押されるように急な岩場を登って行く。四ノ越はいつの間にか通過して、五ノ越で頂上台地にたどり着く。ここで一息いれて眺望を楽しみ、目の前に黒部湖を隔てて針ノ木岳が見え、南には浄土山、竜王岳、五色ヶ原、薬師岳、槍が岳と続いている。すぐ先の雄山神社社務所でザックを下ろし休憩する。「初めての人は山頂

の雄山神社へ登ってきな。入山料500円だからね」と言うと、脇の人が「今日は神主がないので無料だよ」と教えてくれ、それならと全員で山頂に向かう。神社まで登ると記念写真の順番待ちで、しばらく待たされる。ようやく順番が来て記念写真を撮り、神社の裏からこれから登る大汝山方面の展望を楽しみ社務所まで戻る。ここから別山への縦走路に踏み出すと、今までの喧騒がうそのように静かな山歩きとなる。晴れては無いが高曇りで視界が良く、雄大な景色を眺めながら爽快に歩ける。

と思いきや、岩稜の下りは苦手で、ペースがさらに遅くなる。大汝山山頂で記念写真を撮り、下った所が大汝休憩所で、ここで予定通りランチタイムとする。少し風が有って肌寒いが、お湯を沸かして温かいスープやカップ麺で体を温める。皆さん幸せそうな顔で食べていて、「この景色を見ながら食べるのは最高だね！」と大満足。ここから富士ノ折立までは歩きにくい岩稜の下り。富士ノ折立の山頂は踏まず、室堂側を巻くように進み急な岩の道を下って行く。



ペースは遅く、体力の差が出て来ているので、大走りコース分岐で決断を迫られる。このまま予定通り真砂岳、別山を登って別山乗越から下るのは、体力がいるしかなり時間が掛かる。そこで真砂岳、別山はあきらめ、大走りコースを下って雷鳥荘に向かうことにした。これが大正解で、ゆっくり景色を楽しみながら下り、明日へ体力を温存することが出来た。大走りコースの景色は素晴らしく、ハイマツと紅葉のコントラストが鮮やかで、雄山や浄土山の眺めがとても良かった。



急坂を下りてから浄土沢までの草原は、ナナカマドやタデの紅葉が素晴らしかった。浄土沢に掛かる橋を渡り、キャンプ場の中を横切ると最後の難所石畳の急な階段が待ち受ける。

掛かる橋を渡り、キャンプ場の中を横切ると最後の難所石畳の急な階段が待ち受ける。

それでも皆さん元気に登って行くが、Aさんが遅れ始め後からゆっくり登って行く。ようやく雷鳥荘に着くと、SLが受付を済ませてくれGoToトラベル適用で免許証等の証明書が必要との事。7名は持っていたが、我輩他2名は帰宅後ファックスで送るということでOKとなりチェックイン。2部屋に分かれてザックを下ろし、早速温泉に向かう。雷鳥荘は温泉と食事が美味しいので人気の宿だが、皆さん温泉に浸かって疲れが取れた様子。温泉から上がったならビールで乾杯し、お酒やワインも出て賑やかな反省会となった。5時30分から夕食になり、食堂で御馳走をいただき部屋に戻る。10畳の部屋に5人なので、ソーシャルディスタンスは今一だが、一人一枚の布団に寝られグッスリ休むことができた。



**4日: 雷鳥荘 5:30~新室堂乗越 6:25/6:35~室堂乗越 7:00~奥大日岳 8:10/8:30~室堂乗越 9:30/9:40~新室堂乗越 10:10~雷鳥荘 10:40/11:10~室堂 11:40+++立山 12:30/13:15=岩舟支所 18:20**

#### **4日 曇り後晴れ後雨 雷鳥荘から新室堂乗越経由で奥大日岳をピストンで登り、岩舟支所へ**

昨夜、今日の天気予報を確認すると、昼前から小雨の予報になっていた。宿の美味しい朝食を諦



め、弁当を頼んで1時間早く出発することにする。4時30分に起きて外を見ると、曇り空だが周りの山々は見えている。朝食の弁当を食べ、要らない荷物を部屋にデポし宿の外に出る。ストレッチを済ませ、昨日苦勞して登った石畳の階段を降りて行く。雷鳥平のキャンプ場を抜けて浄土沢を橋で渡り、左に進むと直ぐに別山乗越への道を右に分け、沢沿いの道を進む。少し先で沢から離れ、木道の敷かれた平坦地を進む。木道が終わった所からジグザグの登

山道を登り、高度が上がるとガスが掛かり視界が悪くなる。ハイマツの灌木帯を登り、稜線に出たところが新室堂乗越である。ここは別山乗越からの道と合さる分岐で、奥大日岳へは左に進む。稜線の南側を進むと平坦な場所に出て、ここが室堂乗越で晴れていれば剣岳の眺めが良い場所だ。ガスで眺望は得られないが、チングルマの紅葉やミネカエデの紅葉が鮮やかで目を楽しませてくれる。紅葉に癒されながら稜線沿いに進み、カガミ谷乗越はピークを東に巻くように進む。



奥大日岳最高点も西側を巻いて進み、稜線の反対側へ下ってから登り返して、縦走路から右に少し



登ると奥大日岳山頂に着く。山頂からは剣岳の大展望が得られるはずであったが、あいにくのガスで何も見えない。それでも山頂に立てた喜びで、皆さん笑顔で記念写真に収まった。山頂から少し戻った平坦な場所で休憩し、リンゴや菓子を食べながら登頂の感動に浸っていた。下山は往路を戻るが、皆さん軽快に歩き会話が弾む。登りは何も見えない中、不安に駆られて黙々と登り笑顔が見られなかったが、目的

を達成した下りは皆さん賑やかに歩いていた。ガスが段々晴れて来て、時折薄日が差し周りの様子が見えてきた。地獄谷から雷鳥平まで見えるようになり、振り返るとカガミ谷乗越のピークがはっきりと見えるようになる。反対側に剣岳も見えるようになり、山頂部だけが雲に覆われている。室堂乗越まで来るとガスが無くなり、剣岳や赤や黄色に彩られた雷鳥平の斜面がとても美しい。しばし足を止め「見るとこんなに綺麗なんだ～」と満足そうに眺めていた。



天気はだんだん良くなり、登って来る人も多くなってきた。新室堂乗越からは、地獄谷から室堂の紅葉を眺めながら下り、アツ言う間に雷鳥平に着いた。キャンプ場を通り昨日苦労した石畳の階段も軽やかに登り宿に戻って来た。部屋にデポした荷物をザックに詰め、トイレを済ませていざ出発と思ったら雨が降ってきた。そんなバナナ！だが結構降っている。皆さんにレインウェアを着る

ように指示し、外で待っていたが中々出てこない。まさか降らないだろうと、レインウェアをザックの下に入れたので取り出すのに時間が掛かっているようだ。11:40発に乗るので6人が先に出発する。石畳の階段のアップダウンを繰り返して進み、5分前にバスターミナルに着いた。係員の方に「まだ大丈夫ですか？」と聞くと、「間もなく出ますので急いでください」と言われ「まだ4人が来ないので」と言うと「じゃあ改札に並ばないで、向こうに行ってくださいと冷たく言われた。諦めていると階段から4人が降りてきた。「急げ～～」と叫び、係



員の方に乗りますからとバスを止めておいてもらい、ぎりぎりに乗ることが出来た。これを逃すと1時間待つので、ホッと胸をなでおろした。まあ、1時間早く出発し山で雨に降られず、読みが当たったのでラッキーだったし、1時間早くバスに乗れたので結果オーライと自己満足。

立山駅で地域振興券を使ってお土産を買い、それぞれ持参した昼食を食べて駐車場に向かった。ところが、駐車場に着いたら2人が中々来ない。どうやら迷子になったようで、スマホで連絡を取りながら迎えに行く。ようやくたどり着き、「アホンダラ～」と怒鳴りたいのを抑えて帰路につく。雨は山の上だけのようで、下界は晴れて良い天気である。高速道も順調に走り、予定よりも3時間40分早く岩舟支所帰着出来た。